



木加2
1520
6-5

和ゆひ抄卷四目錄

六倫分三

可倫一

何_一

何_二

不倫二

何_三

何_四

何_五

何_六

何_七

何_一

何_二

何_三

何_四

何_五

将倫三

何ん

何ま

何ん

何ら

有倫四

何あり

何あり何あり

何ん

何あり何あり

去倫五

何め

何あり何あり

何ら

何り

何れ

何れ

何奴

来倫六

何き

何ん

何れ

何ん

あゆみ抄巻四 同縁終

あゆみ抄巻四

北邊口授

門人 吉川彦富 筆受
井上義胤

六倫才三

可倫



何^{何の}倫^末才^御三
あゆみ抄巻四の
北邊口授の
門人吉川彦富筆受
井上義胤

あゆみ抄巻四
の
あゆみ抄巻四

同

風吹くと河を馬のふたのまきなり トクニ
 せむし朝そ ヒコ
 たらふあ シノ 〇それ又 ヒコ
 すも シノ
 それ シノ
 ら シノ

秋の ハコノ 秋の
 か ハコノ
 二 テモ
 見 カ

可 カ

ら テモ

そ カ
 そ カ
 ら カ

今日 カ
 へ カ
 言 カ
 たり カ
 せん カ

④

よきよのこころをいへん白乃ゆき サウナラバ みるみるあはれはかき
けほる中なるよとていふもあはれもいふもあはれもいふも

又いふとてあはれいふもいふもいふもいふもいふもいふも
よしかたをいふもいふもいふもいふもいふもいふも
のむらさき のむらさき

237

中からききぬのよはれはいふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

ヤウニヤウニ カアルヤウニ イフ 見かた

何れもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

又いふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

いふも

きふ心なるものちみちあはれいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

何れもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

あつよまの初の中昔の人あはれいふもいふもいふもいふも
除首後撰二十号なるも拾遺なるもあはれいふもいふも

あはれいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

あはれいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

あはれいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

テアランニ思ハシ
テアランニオモハシ

あつて古今のいづれにてもあつて我れをなすべからず定なるも
せんわが かく訓のいふありては後條のまうまういふに
里言のまうは只後條のまうのいふにちがひなくともいふに
かゝるくあつてはせんくつてまういふにちがひなくともいふに

いづれ 物ハ事の本
孔在乃別也 里言のいふにちがひなくともいふに可倫なりて

いづれのとて万葉乃古事不可顯をあらはるるに
も世ゆゑなりとて表ありて裏あつて どなるに 隠といふに

一敵乃あまにわらまふにやふにわらまふにわらまふに

古今のまのいふに里言の始とていふにちがひなくともいふに

源氏 ルハズデナイ のゆまきすらしとていふにちがひなくともいふに

皇家 ハツモナイ のゆまきすらしとていふにちがひなくともいふに

後千 カチ 代りのあつてはせんくつていふにちがひなくともいふに

将倫 カチ 乃まうまういふにちがひなくともいふに

いづれ いづれ するありあひきとて里言てわらまふにちがひなくともいふに

すゝあるあつてはせんくつていふにちがひなくともいふに

いづれ いづれ 上乃河守のりまうまういふにちがひなくともいふに

そらわ 又ニヨリ 何れもいふにちがひなくともいふに

何れもいふにちがひなくともいふに

何れもいふにちがひなくともいふに

何れもいふにちがひなくともいふに

何れもいふにちがひなくともいふに

何れもいふにちがひなくともいふに

何れもいふにちがひなくともいふに

何れもいふにちがひなくともいふに

何れも... 例... 例... 例...

○中二... 例...

○中二... 例...

○中二... 例...

○中二... 例...

○中二... 例...

○中二... 例...

○中二... 例...

○中二... 例...

○中二... 例...

○中二... 例...

古く... 例... 例... 例...

○中二... 例...

○中二... 例...

○中二... 例...

○中二... 例...

○中二... 例...

○中二... 例...

寄

⑤

ひめせえまもえまもわるゝえなるん〇

ひめせえまもえまもわるゝえなるん〇

ひめ

何事の本まゝのし御妻中昔より後未だ
詞まで、鹿とうけらるゝゆくりく裏まゝ

句中句末のまゝ

かゝるゝわらゝとわらゝとわらゝとわらゝと

あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

よめり○事在中の国をけしつりつりしんをさすん
 初也まらうすへつり

らら 甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸
 らら 甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

らら 甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸
 らら 甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

らら 甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸
 らら 甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

らら 甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸
 らら 甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

らら 甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸
 らら 甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

らら 甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸
 らら 甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

101 102

とらうく將倫らんのもよら

秋カラスうらうらうらあすのちかひのなまらひをたのりたうらうら

あつはなカラサキヨいぬのつら末終つちあふくつこのあひせ

何カこのあひのなまらひあつはなをたのりたうらうら

止家とあつはなもあつはなをたのりたうらうら

何カこのあひのなまらひあつはなをたのりたうらうら

何カこのあひのなまらひあつはなをたのりたうらうら

何カこのあひのなまらひあつはなをたのりたうらうら

何カこのあひのなまらひあつはなをたのりたうらうら

何カこのあひのなまらひあつはなをたのりたうらうら

何カこのあひのなまらひあつはなをたのりたうらうら

何カこのあひのなまらひあつはなをたのりたうらうら

何カこのあひのなまらひあつはなをたのりたうらうら

何カこのあひのなまらひあつはなをたのりたうらうら

何カこのあひのなまらひあつはなをたのりたうらうら

何カこのあひのなまらひあつはなをたのりたうらうら

何カこのあひのなまらひあつはなをたのりたうらうら

何カこのあひのなまらひあつはなをたのりたうらうら

何カこのあひのなまらひあつはなをたのりたうらうら

何カこのあひのなまらひあつはなをたのりたうらうら

何カこのあひのなまらひあつはなをたのりたうらうら

何カこのあひのなまらひあつはなをたのりたうらうら

いそり升

まじりてありて見へる一〇成と受けたる有倫乃らんりあ
こころはさすけりていふに彼倫をたあはす毎

何く何くる

何れ事
の儀也

二詞を末と藤よあつひめりてなり。其

言同又きりてよまら

あはれしうらうのしをく秋乃ゆきさひくもあつひめりてなり
あはれしうらうのしをく秋乃ゆきさひくもあつひめりてなり
あはれしうらうのしをく秋乃ゆきさひくもあつひめりてなり
あはれしうらうのしをく秋乃ゆきさひくもあつひめりてなり

あゆひ抄巻目終

